



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.46

「歴史」の2学期期末試験の範囲

(1)【ノート提出】 これまでと同様に、試験当日にノート提出を求めます。必ず、ノート整理をしておいてください。

(2)【教科書と「なんでやねん」のテスト範囲】

教科書の範囲は「聖徳太子の政治改革」(p.38～p.39)、「大化の改新」(p.40～p.41)、「律令国家の成立と平城京」(p.42～p.43)、「奈良時代の人々の暮らし」(p.44～p.45)、「天平文化」(p.46～p.47)です。

「なんでやねん」も出題範囲に入ります。No.34～No.45の内容から、授業で扱ったことを中心に出題します。

『チャート式』では、p.28からp.37及びp.41からp.42が試験範囲ですが、平安時代に関する内容は含みません。

(3)【知識・理解に関すること】 … 教科書の記述^{きじつ}内容を説明できるようにしておいてください。漢字も確実に読めたり、書けるようにしておきましょう。歴史的事実のあった場所を歴史地図の上で確認しておくことも大切です。

必ず、復習しておきたいことがら(キーワード)は、次の通りです。

聖徳太子、蘇我氏、物部氏、冠位十二階、十七条の憲法、遣隋使、小野妹子、飛鳥文化、法隆寺、弥勒菩薩像、玉虫厨子、釈迦三尊像、渡来人、唐、律令、中大兄皇子、中臣鎌足、蘇我蝦夷、蘇我入鹿、大化の改新、公地・公民、律令国家、白村江の戦い、天智天皇、壬申の乱、天武天皇、藤原京、大宝律令、律、令、貴族、平城京、奈良時代、和同開珎、五畿七道、駅路、大宰府、二官八省、太政官、神祇官、国司、郡司、大宝律令、戸籍、良民、奴婢、口分田、班田収授法、租、調、庸、雜徭、兵役、防人、公出挙(出挙)、墾田永年私財法、荘園、天平文化、遣唐使、聖武天皇、東大寺、正倉院、大仏、行基、鑑真、唐招提寺、国分寺、国分尼寺、古事記、日本書紀、風土記、万葉集、万葉仮名。

(4)【資料活用技能に関すること】 … 図版や統計、「古文書(昔の書き物)」、説明文などを読み取ったり、調べたことを整理できるようにしておきましょう。

今回は、「十七条の憲法」の読解や、系図の読み方(p.39)を試します。

また、「律令による役所の仕組み」(p.43)や、「一般の人々の負担(律令の税)」(p.45)から、律令国家の特徴を読み取る問題も出題します。

また、「**なんでやねん**」で紹介した図版や、年表、「貧窮問答歌」などの史料の読み取りを試す問題も出題する予定です。

(5)【思考・判断に関すること】 … 今回の試験範囲では、因果関係を中心に出題します。

聖徳太子の政治改革で儒教と仏教による政治が展開されるようになったことや、大化の改新によって律令国家への道が開かれ、大宝律令によって律令に基づく政治が行われるようになった道筋を説明できるかを試します。

また、律令による支配の厳しさから、民衆が逃げ出し、口分田が荒れ公地・公民制の基礎が崩れたこと、墾田永年私財法によって荘園が生まれ、律令制がゆらぎ始めた因果関係を説明できるようになっているかを試します。

さらに、東大寺の大仏がどのような背景があって、建立されたのか、民衆がどうして大仏建立に協力したのか、などを考えることができるかを試します。

(6)【表現(関心・意欲・態度)に関すること】 … 社会的な課題に対する自分なりの回答を、授業を通して学んだことを活用して考えたり、説明することを求める応用問題です。

今回は次の課題で「作文」を出題します。

【作文課題】「奈良時代の貴族と庶民の暮らしについて、①貴族と庶民の暮らしの違いを具体的に指摘したうえで、②貴族の暮らしが何によって支えられていたのかを説明しなさい。そして、③現代の私たちの暮らしと、奈良時代の人々の暮らしとの違いについて、あなたの考えることを説明する文を書きなさい。」

【ヒント】次のいくつかのことに注意しながら、作文内容を考えると良いでしょう。

- ① 貴族や寺院で暮らした僧侶は、瓦で屋根をふいた立派な建物に暮らした。
たとえば、大極殿や宮中の建物は巨大な建物だった。東大寺は現代でも世界最大級の木造建築物だし、全国に建てられた国分寺や国分尼寺も瓦ぶきの立派な建物だった。けれども、地方の庶民は竪穴住居、平城京の庶民も掘立柱建物に暮らしていた。どうして、人々が暮らす建物に差があるのだろうか。
- ② 奈良時代の貴族と庶民では、食事はどのように違ったのか。
- ③ 貴族の食材は、どこから、どのようにして、だれが運んだ物か。
- ④ 律令国家の税は、だれのためのものだったのだろうか。
- ⑤ 律令国家では、身分の差は、どんな差になって現れているのだろうか。
- ⑥ 駅路で地方と都がつながれた。駅路が整備されると何が変化したのだろうか。
- ⑦ 現代の暮らしは何に支えられ、なぜ私たちは飢えないでいるのか。現代の私たちが12歳を過ぎても働かないで食べることが出来ているのはなぜか。